

**rififi、50号合評会**

**Ver1.0**

**2002年1月31日**

「サーカスの夜」/吉村千夜.....	3
「松戸サイエンティスト」/霜越邦彦.....	3
「還るべき処」/砂塔悠希.....	4
「お一人様ですか?」/白坂匡.....	5
「ぼくはお一人様」/齋藤聡.....	6
「恐怖の大王」/赤石梢.....	6
「歩いて10分」/橋本さかえ.....	7
「鎖につながれた猫」/齋藤聡.....	8
「月の上を歩く」/入江幼夢.....	8
「ぎんのそら」/吉村千夜.....	9
「微笑む」/橋本さかえ.....	10
「旅立ち」/赤石梢.....	10
その他、テーマ詩に関するコメント:.....	11
「あっくんが死んだ日」/齋藤聡.....	11
「結婚」/赤石梢.....	12
「サンタマリア」/橋本さかえ.....	13
「selfish x selfish」/霜越邦彦.....	13
「アリシアの憂鬱」/砂塔悠希.....	14
「眼鏡越しの空」/霜越邦彦.....	15
「Toy」/K.Shimokoshi.....	16
「黒竜に騎る男」/砂塔悠希.....	16

## 「サーカスの夜」/吉村千夜

吉村(作者コメント):

これは数年前、結婚する前にさわりだけ書いて、コンセプトはしっかりたててあったのにそのままになっていた作品です。やたらと年月が過ぎても満足のいくものが書けたのは私にとって意外でしたが、これは自分でも気に入っています。当初書きたかったことが、そのままきちんと書けました。

これはもう、単に、景色を想像しながら読んで頂ければ幸いです。

赤石:

久々に吉村氏の『月夜と銀色』ってイメージな作品ですね。

ピエロも出てきているし。

きれいな挿絵をつけて本にしたいですね。

砂塔:

背景はすりガラス越しの夜空、という感じですか。少女の淡い、切ない恋心の表現は、絶妙ですね。さすがという感じ。ただ残念なのは、彼らを人として捉えることが難しかったこと。言葉が、捕らえようとすればするほど逃げていく感じで、もう少しどこかインパクトがあるとわかりやすいのですが……

橋本:

少女の切なさが、少年の心の迷いを一点集中の視線を強く感じさせます。でも、プロットの的なので、まだまだ深く話をできるんじゃないでしょうか。少女の行動だけで少年の姿を見せるのは、いつもながらうまいタッチですね。

霜越:

短い映画にしたいような作品ですね。サイレントモノクロ実写とか、サイレントのアニメ(こんなのありか?)。アニメなら、クレヨンばい絵で、淡い感じかな。主人公の「不確かな切ない気持ち」(という表現はしっくりきませんが)が、伝わってきて良かったです。

テーマ競作「お一人様ですか？」

## 「松戸サイエンティスト」/霜越邦彦

霜越(作者コメント):

今回も、ネタを思いついちゃったら、笑いが止まらなくなっていました。こんなの出しちゃっていいのかなあ、なあって思いながら、もう暴走は止まらない……。消されそうなのに「く、栗ようかんくいてえ」という博士がいるって思いついたのが電車の中で、笑いをこらえるのが大変でした。周囲の人から見たら、さぞ、気味の悪い人だったことでしょう。

砂塔:

いやあ、笑った笑った。無数の松戸博士がふすまの向こうに～。夢に見そうで怖い(^^;)

赤石:

みさをさんの決断と手際のよさは、竹宮恵子のお八重さんを思わせますが、懐からツアコン風の衣装とか取り出せるあたりは、もしかしてメリーポピンズ風かしら……。

白坂:

一人残した博士が本当の元の博士かどうか気にしないのがいいですね。こおして博士は、もっとマッドになっていくのですね。

橋本:

もうおとくい分野ですね。ただただおもしろい。頭をつかわない。新しいいやし系と申しましょう。

霜越(作者アンサーコメント):

読み捨てたものはどうかな、とも思うんですけど、頭使わず「笑える」ってことも人間として結構重要なことじゃないかな、とも思うんですよ。テレビの下らないけど笑える番組とかみると、結構気持ちが和むし。皆さんに笑えてもらって良かったです。

### 「還るべき処」/砂塔悠希

砂塔(作者コメント):

前にも後ろにも人がいないのに、なぜ案内人はわざわざ『お一人様ですかぁ?』と聞くのだろう? で、お一人様でないことにしてみたのだが…

吉村:

ごめんなさい、これだけはちょっと意味がわからなかったのです……

しくしく。わたしどんどんばかになってるのかなー

白坂:

もう少しすれば、こんなツアーも有りかもしれませんね。

できることなら、こういう送り方をされたいかも……。

(霜越氏の感想を読んだ後で) え?最後に帰ってくるのも地球じゃないんですか?砂塔氏?ちなみに中身だけ撒いているとしたら、壺はどうなるのだろうと考えてしまいました。

赤石:

お墓があると通ってしまうかもしれないし、遺骨が手元にあると泣き暮らしてしまうかもしれないから、こういうほうが吹っ切れるのかもしれないと思いつつ、でもやはり切ないですね。

橋本:

SF という舞台でなくてもいけそうです。結構これは好きですね。もう20年もしたらこんな現実世界が来るんじゃないかしら。と、思わせる話でした。

霜越:

一回読んだだけではよくわかりませんでした、わかってきました。主人公は地球以外のところに住んでいるのですね。地球は住めない状況になってしまった(かな)。大事な人(おそらく、恋人かつれあい)が亡くなり、遺骨を「生まれた場所、地球に還す」ツアー(か?)に主人公は参加した、という感じでしょう。そこまでわかって、やっと最後の「お一人様」であるといえる主人公の切ない気持ちが伝わってきました。

ちょっと理解するのに苦労しましたが、たしかに「骨壺」と書くと雰囲気壊れてしまいますね。

砂塔(作者アンサーコメント):

白坂氏・霜越氏へ。説明足りなかったですね。出発点も帰着点も地球です。スターダストをイメージしてみたので壺のことまでは考えてませんでした。ダストシュートの中で回収されて再利用されるのでは.....。

前に義母が(義父だったかな?)死んだら山から遺灰を撒いてくれればいい。海に撒いてくれてもいい。お墓に入れられるより、そうできると嬉しい。でも今の法律では無理なのかなあ。と言っていたのを思い出し、ちょっとSF風に加工してみたのですが。

霜越:

あ、わたしは方向を勘違いしてたみたいです。

遺灰は、

「地球」-->「宇宙」だったんですね。

タイトル「還るべき処」から「還るところは母なる大地、地球だよ」と頭から勝手に思いこんでいたので、

「宇宙」-->「地球」をベースにつじつまが合うように必死になってました。

どうりでなかなか理解できなかったわけだ。

「地球に還すんだから、自分が地球に帰るわきゃないよなあ。地球に住んでたら地球に埋めりゃいいもなあ」なんてバカなこと考えてました。見守る星になる意味も謎でしたがわかりました。考えてみれば、確かに「宇宙」も「還るべき処」の一つですね。

あー、おばかさ~ん。

## 「お一人様ですか?」/白坂匡

白坂(作者コメント):

これは、なんとなく昔新人研修ものを書いたなと思い出して、今新人研修について書いたらこんななってしまうました。きっと、昨今の新人に対して「最近の若い者は!」なんていう年寄り根性が出てきつい研修になってしまったのかも・・・!?

吉村:

これは皆そうでしょうけど、まあさわりを読んだだけでオチはわかりますよね。

あ、でも二段オチになるのかな。最後の一言は予想してなかったから。わりと何も考えないわたくし。「11人いる!」を思い出しました。この意見も多いのかな。

砂塔:

新人研修ってなァ怖いモンなんだなあ。社長が亀で、専務が梟の会社とどっちが怖いだろう...?

橋本:

こんな就職試験、嫌だな。

一年もアルバイト、って、嫌だし。

とりあえず、私なら、こんな人事する人、クビだな。

労働基準局に、言いつけますよ。(今度、会社、辞めます)

素直な感想です。

霜越:

ああ、恐ろしや不況。そのうち、ほんとにこんな会社がでてきそうで怖い。・・・とかいいながら笑っちゃいましたけど。まとまりよくって質の高いショートショートですね。暴走ばかりしてる自分、ちょっと反省。

### 「ぼくはお一人様」/齋藤聡

砂塔:

いったいなんでそんなゲームに…。ゲームは始める前に説明書きをよく読みましょう。

白坂:

マイトレーヤまでがたいした期間じゃないゲームって一体なんなんでしょうね。

橋本:

期間も問題だろ。ミロクちゃんがあらわれるぞ。「いらっしゃい。レギュラーですか」と言った時はやはりスマイルですよ。

文章は読み易かったです。

私だったら、セルロイド人形とは会話と作業という形で話をすすめるかな。世間話するみたいに。スマイルは止めたいのに止められなくて。伝票にサインもらうと、そのまま車を出してしまうの。「ぼく」は伝票握りしめてて。

そうしますね。ゲームだからゲーム止めない。

霜越:

齋藤さんのいつもながらの雰囲気、いいですね。モヤモヤを残した終わり方。これから五十六億年一人ですごさなければいけない。想像つかないけど色々想像しちゃいます。知らず知らずのうちに読者は恐怖を感じさせられてますね。さすが。

### 「恐怖の大王」/赤石梢

赤石(作者コメント):

出るのが1999年のはずだったので、世紀末ネタで書いてみました。

何が怖いって、人間が一番怖いような・・・。

吉村:

ブラックですねえ。

でも読んでやたらと納得したんですよ。この世の終末ってこういうことなんだろうなって。こういう自然なつながりで、やがては終焉を迎える。それなら最後に残るのは彼ないし彼女だけでしょうし。

私がばかみたいに好きな聖飢魔の曲の「吸血鬼の増殖」では吸血鬼が人類ぜーんぶの血を吸っちゃって、最後にゃ血がなくなってみーんな飢え死にだあああってのがありましたが、なんでかそれを思い出してしまった。「それはちょっとちゃうやろお」って突っ込まれそうですが。

今の世の中だって、何か大きな事件があると必ず模倣犯が現れる。人々の殺し合いって、突き詰めるとこの「恐怖の大王」なんだなあって思える一端なんです。この作品ではもっと麻薬めいた感覚に受け取れますが……

砂塔:

そんな話がありましたっけねえ。最近殺伐としてるし、結構そんなこともあったりして。

橋本:

なんかアガサ・クリスティーの「そして誰もいなくなった」を思い出しました。最後の一人が犯人的な奴。でもトリックがあるのよ。

この話のトリックは「大王」というキーワード。集団の恐怖と個人の恐怖。どちらが怖いのだろう。と、次の話が出来そうな……。

アンサー小説書いてみたいな。いいのかな？

霜越:

そういえば来ませんでしたね。……でもそうってしまうのが「恐怖の大王」の思うつぼってことか。なんかありえそうな感じもして怖いですね。

## 「歩いて10分」/橋本さかえ

橋本(作者コメント):

我ながら、発展性のない話でした。

多々、反省してますので見逃してください。

吉村:

これもタイトルの意味がちょっとわかりにくい。

でもこんな感情のごみ箱にさせられる人っているんですよ。そのゴミ箱が溢れて倒れたときはとても怖いと思うのだけど。

そして反対にはいくら他人を振り回しても平気な人がいる。

これも話はそれますが、先に言った同じ社宅の奥さんはゴミ箱で、ダンナは平気な人でした。ゴミ捨てるばかり。ゴミ箱は溢れて、倒れた先に私たちがいた。

早いとこ処理しないと、確実に厄介なことになりますよ、この主人公にも言いたくなり

ました。

赤石：

うん、あるあるって感じですね。

霜越：

人間の気持ちって、単純じゃないですよ。よくわかります。矛盾した気持ちや、葛藤、よく伝わってきます。変かもしれないけど、私は「辛いんだけど、どこか、ホっとする」という気持ちを感じました。同じ心理を持つ人の仲間意識なのかなぁ。私も嘘をつくのは苦手です。

テーマ詩「祝う」

### 「鎖につながれた猫」/齋藤聡

橋本：

うちに猫は自由です。  
ヒラリと壁を乗り越えて、  
満天の星空の下を  
猫背の背をピンと伸ばして  
ムーンウォークで屋根を走り回ってます。  
ドルは現在 130 円を超えて  
デフレが大腕を振って歩いてくる。  
隣の中国はニコやかに、  
決して「ごめんなさい」を言わない仕事振り。  
文化は西へ西へと動くから、  
次はアジアが文化の基点となるだろう。  
21 世紀は新しい一歩ではなく  
時間の枠で見てみたら、  
ただ、1 秒差のほんの区切りでした。

アンサーポエム。

霜越：

うまいなぁ、と思いつつ、ちと苦しすぎる。ねらい通りにできてると思います。・・・  
が、やわらかい気持ちの作品も欲しいかなぁ、と思ってしまいました。

### 「月の上を歩く」/入江幼夢

橋本：

入江さんって、どちら様ですか？  
久々、タイトルにうっとりきました。  
ああ、最後の方の



足跡さんたち 喜んで？からの4行。  
なんか、もったいない気がするんですが、  
すみません。無い方がいいと思う。  
無い方が私は好きです。

### 「ぎんのそら」/吉村千夜

吉村(作者コメント):

これを書いたときには思いもしなかったことですが、今これを読み返してみると池田小学校(私たちは付属と呼んでいた)の事件のことを思い出してしまい、書いてよかったのかどうかといぶかしむ気持ちすら起こるほどです。

付属は私の家からも歩いて行ける近さで、まりのが幼稚園で一番仲良しの女の子のおにいちゃんが通っています。そのおにいちゃんは二年生。先日やっとお母さんと再会しましたが、一番被害の大きかったクラスだったそうです。

とにかくあの日のことは私たちにとってもなかなか忘れられない、今日はまたやたらと救急車の音がするなあ、どこかで大きな事故でもあったのかななどと思いながら外出し、駅前へ行く途中、通り過ぎた救急車が「西宮消防局」と書いてあるのを見て、初めて「これはたまたごとではないな」と思ったのです。そのあと事件を知り、幼稚園の親たちも騒然となりました。犯人の住んでいたところからうちの幼稚園も近く、池田の公立の幼稚園は必ず小学校に隣接している。もしこれがとなりの小学校で起こっていたら・・・でもその友達のお母さんに再会して、改めて話を聴いて、ますますやりきれなくなりました。すごくリアルな話ですが、たとえば「刺された」とだけ書くと単に血が出たところを想像しますが、もっと「出ていた」ものはある、という話とか・・・

そういう話を聴いてからこの詩を読み返したとき、何故か私の中で繋がってしまったのです。

これを書いたときは、もう少し漠然と、世の中の事件のことを思いながら書いたのは事実です。お母さん仲間と、やり切れない世の中だね、すれ違う人すら警戒してしまうよね、と話をしていました。嫌な事件は次々と起こる、そして新しい事件が起こるたび前の事件は色を薄くしてしまう。そんなことをもっとリアルに感じてしまいます。けれどすぐ近所で起こったこともあり、また関係者の話を聴いてしまったこともあり、付属の事件は私にとってもかなり大きかったです。

今となってはこれを書いた自分は「癒し」を簡単に考えていたのだな、としか言いようがありません。でもこんなふうに、少しでも光が世界にさしてくれるのなら、私たちの子どもたちがこれから生きていく世界もまだまだ暗黒ではない・・・と思いたい、そう心から感じます。

橋本:

「あのぎんいろのきらめきが」からの3行。

かっこいいですね。

霜越：

沈んだ現世にキラキラと降ってくる「希望」を感じさせるような系・・・これって「子供」「赤ちゃん」のイメージ？ うーん、ちょっと違うな・・・。新しい宗教だったりして（・・・それはないな）

### 「微笑む」/橋本さかえ

橋本(作者コメント)：

別に、何も無し。

こんなの書いてたの忘れてました。

吉村：

ううむ、わかる、わかるぞ。めちゃくちゃわかる。

女だねえ。女の性を引きずるね、でも爽やかなのね。

もりちゃん作品はどれもそうです。爽やかじゃない部分もあるのに。

昔すごくすごく好きだったひとに、ある日ふと再開するなんて場面を想像することって、ありません？ そういう感覚に、似ている。私自身はすごく自分が変わったつもりでいるのね。あの頃と。

実際には、小6の同窓会に行って「見てわかるくんナンバーワン」の一人だったのだけでも、む、話がそれた。もっと切ないですね、このひとは。けれどその感情に囚われている限りは、変わったつもりの自分も大して変わってはいないのかも知れないけど。

霜越：

すきだけど、「気持ち」に体当たりされた感じで、辛い感じがしました。そういう内容なので、狙い通りですよ。ダメという意味じゃないです。

### 「旅立ち」/赤石梢

吉村：

これもダークですよ。

誰かがそれを喜びとするとき、それを苦しみや憎しみとする人がいる。

それにしてもオチが・・・

相変わらず忙しいのね、アナタ。そう思ってしまった吉村です。

でもそうなんですよ。

うちのHPはあまり見ていただいてないと思いますが、そこにうちの夫婦に去年起こった事件が書いてあります、まあはしょって言えば同じ社宅の奥さんの一人が少しずつ頭のネジをなくして行って、そのとばっちりがもろに私たちに降りかかった、という話なのですが、とにかく私は怖かった。

けれど私たちには重大な事件でも、彼女の両親にとっては事件ではなかった。

受け取り方は人の立場や感情によって全く異なるものとなるのです。

当たり前っちゃ当たり前ですけどね。

橋本：

横書きにしたの、わかります。

なんかの英文の訳みたいですね。

霜越：

毎日普通に暮らしている、だけど、現代社会の構造に疑問を持っている人。そんな人の心理という感じですね。・・・ということは、今の国民みんなの総意か。ひょっとすると、「日本」とか「世界」(が心を持ってたら)の気持ちかもしれませんね。

### その他、テーマ詩に関するコメント：

橋本：

今回のテーマについて、

祝うなのに、なんか皆(私も含めて)暗ッ。

明るいの書けばよかったよッ。

ああ、もう。こう。重いかなあ——。

すみません。書き直してもいいですかあ。

書き直させてください。お願いします。

ジャンル指定『恋愛もの』

### 「あっくんが死んだ日」/齋藤聡

砂塔：

そこにあるべきものが忽然として無くなる。薄れていく記憶を失わせまいとする主人公の行動が臨場感があってとてもいい。

赤石：

遺体を見ないと死んだという実感がわからないというのは、確かにそうかもしれないですね。蛇の生殺しのように先へ進めない主人公が切ないです。

白坂：

自分を殺すなー！！！！

橋本：

すごいね。リアルすぎ。せつないと言うより、音が無い。静かではない。音が無い話です。さえぎる物がないから、すごくクリアだし、物質さえもない感じ。こんな話、そうそう出来ないと思いました。

え——と、何とというか

ブラボー。

霜越：

すごーい。主人公は虚脱感に覆われた世界にはまっていますが、その中にある、静かな、愛しさとか、やさしさとか、ねたみとか、かなしさとか、色々な感情がうまく伝わってきます。かなり熟考している・・・というよりシミュレーションかな？したんでしょうね。一生に一度もののネタですね。

## 「結婚」/赤石梢

赤石(作者コメント)：

なんとなく、職場の周りに独身男女が増えているような気がしたのと、厚生省の少子化統計で結婚年齢が着実に上がっているのを見て・・・。詩に引き続いてこれも結局世紀末ネタになっていしまいました。

砂塔：

恋愛と言うより...そういう考え方もありなのかなあ。

橋本：

すみません。私、まだ結婚してませんが、いつかはするつもりですよ。やっぱ老後とか考えちゃうしね。(一般的ですが)あと50年はきっと生きているだろうし。50年って長いよね。60年だったらあと半分なのに。

前は、女は安定を求める動物で、男は社会的現実生きる動物だと思っていたわけ。だからそうじゃないキャラクターを書こうと思ってお話書いてたつもりだったけど。最近こう違うなあーって思ってきた。周りとか見てたら、女は目に視える現実を生きる動物で、男は目に視えない現実を生きる動物だと思うことが多々有り。仕事でも夢みたいなお事言って私をおこらせるのは男達ばかりだぜ。

もしかしたらずっと昔からそうだったのかなあ——。

イギリス人のクレアが言ってたよ。もうイギリス帰っちゃった28才の女性。

「彼にもっと世界見たいと言って、スペイン、オーストラリア、日本と来たわけ。でも彼はおこったわけ。そんな女はいらない。別れる。私は哀しかった。彼の顔、もう見る事出来ない。」

——。こんなこと言われたらしいけど、100年別れるわけじゃないから、待ってればいいじゃん。好きならよ。彼氏!!

クレアはジャパニーズガイを連れてイギリスに帰りました。

霜越：

ん？ 結局、そんなだから結婚できない、っていう落ちてこと？・・・ちがうか。後半は、SFっぽいですね。

## 「サンタマリア」/橋本さかえ

橋本(作者コメント):

いつだったか霜越君がこれ書くの恐くなかったかと聞かれましたが、恐くなかったです。私は高校の時から、千恵子さんがなんか人形みたいに書かれてて、(千恵子抄とかね)それもこわれた人形みたいで、嫌だったので、やっと書けるかなあと思った。まだ不完全なところあるけど、光太郎さんのデリカシーのないところと一方的な視線(ごめんね、光太郎さん)気付いて欲しいと思っていただろう千恵子さんの気持ちが書きたかった。

と、いうわけです。

たぶん、本当の千恵子さんはもっと違うだろうけどなあ。

吉村:

もりちゃんと電話で話したりうちに遊びに来てもらったりしていた頃、彼女が夢中になっていたのがこの「智恵子さん」と、もうひとつ「白雪姫のママ」でした。彼女はうっとりするようにそれを語るんですよね。そして読んでみたら、ほんとうに、心地よく予想通りの作品で、これも心から納得しながら読みました。私もお多分に漏れず、「智恵子抄」には昔はまったことがあります。お茶水の丸善に檸檬を置きたくなるとか、そういう青春の勢いめいた微熱ですよ。

悲しくて、読みながら、すこし泣きたくなりました。たぶん私は子供を生んで、この危うさとはさようならしたのだと思っていますが、子供を生む前ならもっと智恵子の近くへ行っただと思う。女性が手に入れる強さと脆さは紙一重であったり、二律背反であったり、けれど女性ゆえの経験から近寄ったり遠ざかったりするものらしいと、だんだん考えるようになりました。智恵子さんは危うさに一番近かったけど、誰もがその可能性はもっていることを、・・・忘れてはならないのか、忘れた方がいいのか、難しいところですね。

砂塔:

元ネタのほうを読んだことがないので何ともいえませんが、これ単品として読むのは好きな部類です。

赤石:

私は元のは読んだことがないのでよくわからないのですが、橋本氏らしい女性らしい感性がよく表われていますね。

霜越:

実際にいた人かくのって勇気いりますよね。智恵子さんの気持ちが実際そのとおりだったかは別としても、「気持ち」の流れから思い入れがよくわかります。もう、なりきり、で書いたんでしょうね。勉強になりました。

## 「selfishxselfish」/霜越邦彦

霜越(作者コメント):

今回、恋愛物で、結構悩んじゃいました。というのも、恋愛ものって世の中にあふれて

るから、何を書いてもありきたりになってしまうんじゃないか？ とか、単品で普通に書くと「主張感」出すの難しいなあ、とか、一本一本が弱い作品でも連作にすればそれなりに「主張感」を出しやすいんだけどなあ、なんてことをしばらく考えてました。で、結局、コンセプト自体は、ありきたりだけど「犬猿の仲の二人がくつつく」にして、あとは、どうやって魅力を持った作品にしようか、ということに集中しました。読みやすく、ハラハラドキドキできる内容にしあげてみましたが、いかがだったでしょうか。

砂塔：

さすがですね。状況心情の変化などがよくわかります。

白坂：

そういえば、昔霜越氏がベットシーンを書いていいだろうかと言っていた作品がこれだったんですね。(笑)

赤石：

イベントもいろいろあって飽きさせなくて軽快なタッチなわりに、ほのぼのと仕上がっていて割と好きです。

橋本：

何も言うことありません。

うまい。エピソードの入れ方もいいし、性格の使い分けもいい。人間らしく書けているし文章も重くない。飾り気がないから読み易いし、いいのではないのでしょうか。

本気で作家になったらどう？

霜越(作者アンサーコメント)：

「良いネタを膨らましてつくった」、というよりも、自分でも「良い設計した」という感じの作品だったので、ある程度想像していた反応かなあ、って感じです。(つまり、「面白い」よりも「よくできている」が目立つ作品、と自分で思うので、やっぱり、そんな感じの反応だったなあ、ってことなんです。今回の反省点だっということが言いたかったんです。(せっかくのご意見を・・・すなおでなくて申し訳ない。))

(今回苦労した点)特にキャラ作りには苦労しました。構想の時点で二転三転させながら決めました。紙面には出していない彼らの過去も結構作ったんですが、そのせいで、ちょっと読み後、違和感が残るような気もします。ロングバージョンの構想もあるんですけど、機会があったら書いてみます。

## 「アリシアの憂鬱」/砂塔悠希

砂塔(作者コメント)：

背景世界はクリスたちでおなじみのブリタニア。まだ本編には登場していないクリスのいとこ、ギルバートに焦点を当ててみた外伝です。本編にはあまり関係のない二人ですが、再登場も考えてますので今後ともよろしく。

吉村：

可愛い作品ですね、砂塔さんの作品としてはちょっと意外かな。

なんとなく、昔好きだった少女漫画をいろいろ思い出しました。小椋冬美さんとか・・・  
普段の砂塔は那州雪絵さんのイメージなんですけど。昔好きだったの知ってるからかな。

砂塔さんの作品は時代や国などの設定がめちゃくちゃファンタジーなのに会話が現代なところが、当初は少し抵抗あったものの逆に魅力になってしまったところが凄いなと思います。そこが引きずり込まれる要因なのかな。

これはこれでひとつの作品なのだから、もう少しアリシアの外見にも触れて頂けた方が読みいいかもしれません。それにしても見張りばあはどこへ消えたのか・・・

赤石：

プレーボーイかと思ったら違って見直したっていうふうなところが、なんとなく少女漫画の玉の輿にありがちな感じなので、是非吉村氏の言うように那州雪絵風なマンガで見たいような・・・。でも、「那州雪絵の中世風」で思い出したマンガは、こっちの世界から突然呼び出されて変なお菓子しかちゃんと出せない魔法使いになった女の子のギャグマンガだけれど・・・。(.-.；)

橋本：

ムッ、ゆううつって漢字、本気で書けんッ。

ハーレクインロマンスとか、いいよねー。

おもしろかったです。前、千夜さんにハーレクイン風書きたいと言ってたのを思い出しました。

やっぱりサビはこう。

「僕が阪神電鉄のおんぞうしだからか!？」

「違うわ!!」

——。無理や。私が書くとコメディになる。この性格直します。

霜越：

こういう可愛い主人公って好きだ!

読んでても楽しいし、いいですね。もうちょっと先の話まで欲しいかなあ、なんて思うのは私だけでしょうか。スカッとしたハッピーエンドにして欲しいな。

おまけ。連載もの、途中評

### 「眼鏡越しの空」/霜越邦彦

橋本：

ドリカム。

モモちゃんは、クラスのリーダー的存在だよな。きっと。今後の脇キャラに期待します。

霜越(作者アンサーコメント)：

結構ギミックにもこってて、ん?とか、あれ?とか、何?っていうところが今後出てきま

す。ドリカムの歌に沿ってってのもその一つですね。聞きながら読んでみるのもいいですよ。あ、この歌詞ここ！ってわかります。あと、「ながれ山 三四郎」計画なんてのも企んでいます。楽しみにしてください。モモちゃんもそうですが、個性ある脇キャラが結構出てきます。これもお楽しみです。

### 「Toy」/K.Shimokoshi

橋本：

——。うーん。霜越君。このタイプはよくわかりません。ごめんなさい。

### 「黒竜に騎る男」/砂塔悠希

橋本：

なんて詠むのかおしえて下さい。またがる？でいいの？(勝手読み)

なんとなくは背景わかるのですが、話のスケール、時代背景、もう少し加えたほうがよいのではないのでしょうか。もったいない気がする。前を読み返さない私みたいな読者のために(ごめんなさい)お願いします。

砂塔(作者アンサーコメント)：

「こくりゅうにのるおとこ」と読みます。当て字です。

あらずじつけたほうがよさそうですね。もう長いし。